

# 札幌駅前通 地下歩行空間事業

現在、札幌市中心部で工事が進められている駅前通の地下歩行空間。地上からは見えない工事現場で、どんな空間が創造されているのか？ どの程度工事が進行しているのか？ 市民の関心も高まっています。

そこで、札幌市建設局土木部 創成川・駅前整備担当課長 清水英征さんに、事業内容と進行状況についてお話を伺いました。



札幌市建設局土木部  
創成川・駅前整備担当課長

清水 英征 氏



**Q** まず、「札幌駅前通 地下歩行空間事業」とはどんなものなのでしょうか？

**A** この事業は、札幌駅周辺地区と大通地区とを地下歩道でつなげることにより、2つの商業圏を結んで、街中の回遊性を高めるものです。

地下空間は、地下鉄南北線さっぽろ駅～大通駅間の約680m（国道160mを含む）。地下街のようなショッピングモールではなく、閑散とした地下通路でもない、多様な使い方ができる新しい空間を創出し、都心の魅力アップと活性化を図ります。

**Q** 完成すると、どんな地下空間ができるのですか？

**A** 天井の高さは2m80cm、幅20mの歩行者専用通路です。床などのトーンはグレーを基調。特徴は、将来、沿道のビルが地下通路と広い面積でショーウィンドウのようにつながり、歩行者にビルの顔が見えるようになります。

通路の両側には、オープンカフェやイベントスペースなど人々が憩い楽しめる空間を創造し、固定化せずに可変性の活用ができる場所を用意しています。



**Q** 地下通路空間を作った目的は？

**A** 大きな目的は2つあります！札幌駅周辺の再開発により複合施設が生まれ、元気な商業圏になったことから、大通地区と札幌駅地区を行き来したいというニーズが高まってきたんです。

もう1つは、季節や天候に左右されず、お年寄りや車椅子の方など誰もが安全・快適に移動できる、バリアフリー（ユニバーサル）な歩行空間を確保するのが目的です。雨や雪の日に、地上に上がり横断歩道を渡るのがたいへんであるという声から、少子高齢化に向け、上下移動のない地下通路の必要性が生まれたのです。また、車イスがスルーできるエレベーターの設置、多目的トイレ、目の不自由な方への音声案内なども設けました。

**Q** 現在の工事の進行状況は？

**A** 工事スケジュールは順調で、外側の土木工事が終了し、内装・設備工事に取りかかっています。

人も車も多い中心部での工事のため、周辺オフィスや店舗の営業に支障をきたさないよう、通行の邪魔にならないようにと深夜の工事が多くなりました。

深夜は、周辺ホテルの宿泊者に迷惑がかからないよう、相談しながら工事を進めました。周辺住民の方とは、状況に応じてアドバイスを頂きながら対応しています。

工事で苦労した事は、地下に埋まっている電線やケーブルが多かったことです。それを動かすのに時間と費用が予想以上にかかりました。

**Q** 建設にあたり、市民からの要望は何かされたのでしょうか？

**A** ヒアリングやアンケート調査などで、市民の方から要望が多かったのは、「にぎやかな空間にしてほしい！」という声です。閑散としたさびしいイメージの閉鎖された空間ではない、明るさと開放性が求められました。

それに応えるため、天井の各所にガラス張りの「スルーホール」を設け、トップライトとして自然光が通路内に差し込むように設計しています。下から上が見えることにより、季節や時間帯が感じられます。出入り口の階段部分もガラス張りにし、スルーホールと同じような効果を見込んでいます。

「にぎやかさ」の創出については、市民のリクエストにも応えながらコンサートなどの催事やアート展示、休憩スペースなどを設ける予定で、閑散とした地下通路のイメージを払拭したいと考えています。

また周辺住民の方からは、計画当初、「地下空間ができると地上店舗の利用客が減少するのでは？」との声もあったのですが、地下通路とビルとの接触部分を広くしたり、ビル内飲食店からテイクアウトで飲食ができるオープンカフェを作る計画を進め、更に地上部歩道も広がり、ビルとの連携を深めています。

**Q** 気になる冬対策は？

**A** 出入口には、ロードヒーティングを設置。雨や雪でぬれている靴底で歩いても、通路がすべらないようテストし、床面に表面加工を施しました。お年寄りでも転倒の心配なく歩いて頂けます。

通路内の温度は、夏が28℃、冬が17℃に設定。留まっても寒くなく、屋外との温度差も大きくなりすぎないように調整。春と秋は、空調をいれなくてもいい期間を作り、ECO対策も進めています。

**Q** 治安はどのように守られるのでしょうか？

**A** 北2条交差点の下に「防災センター」を設け、警察官の立ち寄り場所も併設します。なるべく人目につかない隠れたエリアを作らないよう配慮し設計しています。

各所に多数のカメラを設置し、危ない動きがないか常に監視します。女性が、深夜にひとりで歩いても安心です。

## Q 地下鉄への影響は？

A さっぽろ駅～大通駅まで1区間だけ地下鉄を利用していた人は、歩く人が増えるでしょう。しかし、それで地下鉄の収入が減るかというところを上回る利用者が訪れると期待しています。近隣都市や郊外から中心部に来る人が増え、長距離で地下鉄に乗る人が増加すると考えています。

札幌市が目指す「コンパクトシティ」は、創成川公園整備を含め、狸小路、大通地区、札幌駅周辺とぐるぐると街をまわることができ、日常生活の中でも街歩きが楽しくなる空間作りを推進しています。市民はもちろん、観光客にとっても新しい魅力となることでしょう。

## Q 既存の地上道路は、どのように変化するのでしょうか？

A 片側3車線の道路のうち、1番外側の1車線をつぶして歩道にし、出入り口を設けます。ただし、通行の妨げになる荷物の搬入など停車車両用の停車スペースを2車線の外側に確保します。

歩道の幅が広がる分、歩行者優先でありながらも、自転車の通行は今より余裕ができ、安全な空間になると考えております。

## Q 「駅前通地下空間」建設による経済効果は？

A 当初、年間約230億円の経済波及効果があるだろうと予測しています。昨今の経済不況の影響はあるでしょうが、大通・札幌駅前、両方の商業圏を行き来することによる消費拡大、周辺ビルの新しいテナントの入店や集客数の増加、関連産業への誘発など、直接的にも間接的にも経済効果は広がっていくでしょう。

## Q 将来の展望は？

A すべてのビルが最初から接続するわけではありませんが、建て替えをきっかけに地下通路と接触する間口を広くする予定のビルもあります。

ビルオーナーの方々が中心となり、将来型地区計画を出しています。ビルの外観を同じ雰囲気にし、ファサードを揃えて街並をキレイにしよう、オフィス街をにぎわいのある通りにするため、低層階ににぎわいを作り出すテナントを入れようなど、地域の方が自らルールを作り出しています。

黙って見ているわけじゃない、これを機会にいい街並をつくらうという取り組みが始まっています。「地上店舗の経営に影響が出るのでは？」という懸念を払拭し、官民一体の動きになっているのです。

地下通路空間は、完成後も変化し続けていくと思っています。接続するビルが増え、古いビルが新しくなり、地上と地下が連動したビル群となり、まとまりのある新しい空間に進化していくことでしょう。

可変性の活用ができる地下空間は、予想もつかない使われ方になっていくかもしれません。農産物・加工品・スイーツをワゴンで販売したり、季節や年中行事とタイミングを合わせた催事をしたり、市民のリクエストによる参加型イベントも可能です。最低限のルールを守りながら使い方を工夫し、訪れる人に飽きられない空間を創出していただければいいですね。

完成は、平成23年春を予定。全国のどこにもない、おもしろい地下通路空間になることを期待して下さい！

